*　　*　　*　　*

無道管双子葉植物の一員とされてきたセンリョウ科センリョウにおいて，最近，根と茎の木部から道管が見いだされた。本研究では，道管が茎のどの部分にあるのか一層詳しく知るために走査型電顕を用いて調べた。後生木部要素は他部分の要素よりいくぶん太く，末端に階段状壁孔を有している。二次木部のうち初期に形成された要素は階段状壁孔を有しているが，後期に形成された要素は円形壁孔を有している。茎には横断面でみると広い維管束と狭い維管束がある。広い維管束の後生木部要素と初期二次木部要素の階段状壁孔には壁孔膜がないが，後期二次木部要素の円形壁孔には壁孔膜が観察された。また狭い維管束のすべての要素には壁孔膜が観察された。すなわちセンリョウの道管要素は階段状穿孔をもち，広い維管束の後生木部と初期二次木部に存在することがわかった。また壁孔膜の有無と管状要素の太さとの相互関係を調べたところ，壁孔膜の消失すなわち道管形成と管状要素の直径には明らかな関係のないことがわかった。

□ Gifford, E. M. & A. S. Foster: **Morphology and evolution of vascular plants, 3rd ed.** 626 pp. Freeman and Company. ¥ca. 14,000. 本書は2版まで Comparative morphology of vascular plants (Foster & Gifford) と表題されてきた，名高い教科書の第3版である。2版の出版される前年の1973年に亡った Foster が第2著者になっている。第2版の書評を本誌に書いた（**50**: 114, 1975）ときに指摘した上級分類群の選択についての著者の見解が後退し，ほぼ現在の通説に従っている。年々増加するぼう大な文献から重要なものだけを選択するだけでも大変な仕事になってきている。本書では1版や2版にあった個性は薄らいだが，維管束植物の基本構造に学ぶためには，やはり出色の教科書ではないだろうか。　　（大場秀章）

□ 滝　一郎: **じゃがじゃが植物記**　211 pp. 1989. 鉱脈社（〒880 宮崎市田代町 263). ¥800（税込).「じゃがじゃが」とは日向弁で「そうだそうだ」の意味だという。宮崎県の新聞にこの表題で，同じく雑誌に「三味線蔓」の題で連載したもの，合計71項目の話を集めたのがこの本である。著者は永年宮崎県の小・中学校，博物館で理科の先生を歴任し，植物の研究と教育に経験の深いかたである。自然に恵まれた南九州の人々が，子供のころ毎日見て，触れて，遊んで，食べて親しんだ草木が次々と出て来るが，県外のまた大都会などの人も「そうだそうだ」と同感しそうな植物との付き合いの楽しさに満ちている。一般向きの読み物である。私も初めて知ったこと，なるほどと思ったこと，それに日向弁の解説などもあって，興味深く通読した。　　（伊藤　洋）